



表紙 「春に遊ぶ」(日比谷公園) 2016年5月4日

自力無効のお念仏を聞きながら、自力の限りをつくし絵を描く。

森 孝之 [東京三組 福成寺門徒]

昭和37年、東京都江東区深川に生まれる。  
美術学校や画家に師事することなく水彩による風景画にのめりこむ。  
以来30年あまり水彩画の奥深さにとりつかれ現在にいたる。  
公募展に出展することもなく、現場で描く事を楽しんでいる。

# もくじ

## 緊急特集 随筆

「異常事態が続く生活の中で、  
我々、真宗門徒の立脚地は  
どこにあるのか」

花園 一実  
星野 暁

●03

●06 インターネット法話のご案内

●07 特集 本願寺横浜別院

●13 法語ポスター

教区教化通信 研修部門

●14 2019年度秋安居報告 雲乗 真樹

教区教化通信 「同和」協議会

教学者は「是旃陀羅」問題に  
己の血を流せ！⑤

岩寄 徹

●15

はい！こちら真宗会館です

●16 駐在日記 渡邊 誉

はい！こちら真宗会館です

●17 所員のつぶやき 大山 我聞

はい！こちら真宗会館です

芝原 悠理

●18 所員異動挨拶 白川 亮

●19 敬弔・涌 朝倉 俊隆

# 緊急特集

## 「異常事態が続く生活の中で、我々、真宗門徒の立脚地はどこにあるのか」

新型コロナウイルスの影響により、誇張ではなく、文字通り世界中のあらゆる分野において甚大な被害がもたらされている。かつて大流行したとされる「ペスト」や「スペイン風邪」は、少なくとも現代の日本に暮らす我々にとっては時間的・空間的な距離を鑑みれば、確かに対岸の火事であったといえるだろう。しかしこの度の新型コロナウイルスは、我々の生活を脅かす、今まさに現前に迫る危機である。

事実、感染予防の観点からあらゆる行動が自粛・制限を求められ、例えば、人生の一大イベントである卒業式・入学（入園・入社）式などがほとんど中止或いは規模縮小となった。またそれに止まらず、このような非日常ともいえる中において、マスクの高額転売や、感染者・その関係者の方への誹謗中傷など、人心の闇があらわとなるような事件も起こっている。我々人間がいかに法水ほつすいにさらされなければならぬ身であるのかを痛感するばかりである。

しかし、ウイルスの脅威は今なお予断を許さない状況にあつて、命を守る選択として、今春予定されていた法要の開催や参加を断念せざるを得なかったという寺院関係者の方々

も多くおられよう。寺院や御門徒宅で勤まるはずだった法要が中止や延期を余儀なくされたということは、同時に、我々が聞法の座に遇う機会を逸してしまうということでもある。この期に際し、我々が真宗門徒としての立脚地を今一度確認する会座になればとの思いから、今月号から数号にわたつて、「異常事態が続く生活の中で、我々、真宗門徒の立脚地はどこにあるのか」と題し、緊急特集を組ませて頂くこととなった。掲載原稿については、宗祖親鸞聖人が先んじてお示しになられた「教学と社会問題双方に身を置き課題を見出す」という姿勢に我々も学ばせて頂くとう、教区内の御同朋として教学・社会問題に積極的に取り組まれていらっしゃる方々に執筆をご依頼させて頂いた。

今号掲載させて頂くのは、東京教区教学館主幹の花園一実氏（東京1組圓照寺）と東京教区同朋社会推進ネットワークチーフの星野暁氏（茨城2組浄安寺）の両氏である。急な依頼にも関わらず懇篤な原稿をお寄せ頂いた執筆者の方々にはこの場を借りて御礼申し上げます。本稿が少しでも多くの有縁の方々の目に触れ、各々の立脚地回復の手立てとならんことを願うものである。

教区教化通信 緊急特集

## 心に念仏のともしびを

教学館 主幹 花園 一実(東京1組 圓照寺)

新型コロナウイルスによる感染拡大が続いている。虫や鳥が花粉や種を運ぶように、ウイルスは効率よく世界中に広がっていった。そのスピード感は人間社会のグローバル化を嘲笑うかのようだ。街からは活気が失われ、行き交う人々の表情は暗い。うっかり素面すめんで電車に乗れば、たちまちに周りから白い目で見られているような錯覚に陥る。先日ひるのニュースでは、医療従事者を親に持つ子どもが、保育園においてまるで保菌者のような隔離扱いを受け、傷つき泣いていたという。

このような状況の中で私たちが恐れるべきことは、ウイルスによる隔離だけではない。人間の心までもが隔離されていくということではないだろうか。

親鸞は88歳の時のお手紙で、当時、飢饉や

疫病で世に人死にが多く出たことを受け、生死しじょう無常むじょうのことわり、くわしく如来のときおかせおわしましてそうろううえは、おどろきおぼしめすべからずそうろう。

〔「末燈鈔」『真宗聖典』603頁〕

と述べられた。前の震災の折にも、よく取り上げられた法語である。私は最初、人間の現実的な生き死にの問題を、「道理」であり「驚くな」と喝破する親鸞の姿勢にどこか冷たさを感じていた。しかし、ある時ふと、これは無知な者を喝破する言葉ではなく、「怯えなく正しい」と励ましている言葉なのだと気がついた。「驚く」は、サプライズという意味だけではない。日本語ではもとより「驚(おどろ)し」といい、「おそろしい」という意味を含ん

だ言葉であるからだ。

現在もマスクなどの争奪戦が各地で起こっているが、困窮した状況において最も懸念すべき問題は、恐怖のあまり人々が互いに疑心暗鬼になっていくことだろう。不安は人間を孤立させ、孤立はより大きな不安となつて我々を追い詰める。

生死に怯える時 生活は沈み  
生死をみつめるとき 生活は輝く

残念ながら念仏によつてウイルスを撃退することはできない。しかし、念仏は無明の闇を照らす燈火として、私たちに生死を恐れず見つめることのできる正しい眼、勇気を与えてくれるのではないか。

差別や偏見によつて他者を排除していくことは、人間が持つ揺るぎない業である。しかし我々が大切な誰かを失った時にそう気付けるように、身体は遠く離れ会えなくとも、心だけは近くにあり続けることができるのも、また人間という存在なのだ。

私たちは心まで隔離されてはならない。

# 目に見えない新型コロナウイルスが

## 見せてくれたこと

同朋社会推進ネットワーク チーフ 星野 暁（茨城2組 浄安寺）

新型コロナウイルスが全世界で猛威を振るっている。目に見えない不安や、先の見えない不安におびえる中、海外ではマスクをした東洋人というだけで暴力を受けた映像が報道された。国内でも咳き込むだけで周囲から白い眼差しが向けられる。地方に住む私にとって、感染者の多い東京は「キケンなトコロ」に見え、特に都内ナンバーの車から人が降りてくると2メートル以上離れよう意識が働く。そして、感染者がウイルスを広げないために有効だとされるマスクは、防衛のためのアイテムに感じてしまう。

震災や原発事故でもそうであったが、社会的弱者といわれる方々が、まず最初に苦境に

立たされている。また、様々な業種の方が職を失っている報道を聴いて「犯罪や自死者が増えるだろう」と、自分は安全な所に居ると思いつきながら評論している。そして、自分以外は「バイ菌」のようにすら見えてしまう。こうした私自身にある偏見が、格差や差別を肯定し、世の中をますます疲弊させてしまっているのだろう。

一方、感染拡大防止の観点から、濃厚接触を避けるために休校や様々な自粛など、日常生活にまで大きな制限が強いられている。しかし、実際には濃厚接触を避けた生活は困難であり、楽しみも減り、異質であって、多くの方々も困惑し、しんどさを感じていると思

う。

そこで、見えてきたことがある。普段の何気ない日常は、名前も知らない、目を向けることもない不特定多数の「ひと」「もの」「環境」との濃厚なふれあい、「縁」によって支えられ、成り立っていたことを。

「外国へ行くと日本が見えてくる」と同じように、濃厚なふれあいを避けなければならぬ今だからこそ、御陰様（おかげさま）（名前も知らない人びとなどの支え）によって生かされてきた自分の日常を見つめ直すチャンスにすることもできる。

他者をゆるし、受容するところがますます希薄になった現代（＝私）。このパンデミック（世界的大流行）によって、当たり前に見ていなかった「縁」に目覚め、寛容の精神を回復させる契機にするには、この問題をどこに立って考え、そして、何をしていったら良いのだろうか。それを見つけ、行動につながるものが出来れば、世の中の様々な疲弊を超えていく糸口になるのではないだろうか。

こんな時でも こんな時こそ 教えに出遇える

## インターネット法話のご案内

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各所での法座が中止になっております。また、「仏法には、明日と申す事、あるまじく候。仏法の事は、いそげ、いそげ」(『蓮如上人御一代記聞書』)と申しますが、不要不急の外出自粛要請に伴い、法座へ足を運びにくくなっている現状です。

しかし、こんな時でも、こんな時こそ、教えに出遇えるご縁として、インターネットで法話を聴聞してはいかがでしょうか。今だから聞けるお話。今まで出会えなかった先生のお話。インターネットだからこそ、場所も時間も気にせず聴聞することができます。これを機にぜひご利用ください。

	<p>サイト名 真宗大谷派 東京教区「暮らしにじいん」</p> <p>リンク先 URL <a href="http://www.ji-n.net/">http://www.ji-n.net/</a></p>
---	---

録音図書 聞いてらっしゃい

お坊さんの如是我聞 (によぜがもん)



	<p>サイト名 真宗教化センター「しんらん交流館」</p> <p>リンク先 URL <a href="https://jodo-shinshu.info/">https://jodo-shinshu.info/</a></p>
---	---

いま、あなたに届けたい法話

子どもたちと聞く法話♪



	<p>サイト名 東本願寺「真宗会館」</p> <p>リンク先 URL <a href="https://shinshu-kaikan.jp/">https://shinshu-kaikan.jp/</a></p>
---	--

日曜礼拝 法話オンライン配信



(真宗会館 YouTube チャンネル)

# 特集 本願寺横浜別院



東京教区には横浜別院と甲府別院の2つの別院があります。今回は横浜別院を訪れました。

## 歴史

横浜別院は1866年8月、東本願寺二十一代ごんによ嚴如上人が、当時の武蔵国久良岐郡横浜村（現在の横浜市中区の関内付近）に本山二十八日講を組織し、横浜の地に閻法の拠点を創設したのが始まりです。

この二十八日講をもとにして1872年横浜市中区太田町六丁目、浅草別院横浜出張所を建設、1883年には花咲町に移転し、ここに堂宇を建立して出張所から浅草別院の



嚴如上人



1922年頃の横浜別院

支院に改称しました。この堂宇<sup>どうう</sup>自体は1899年の「雲井<sup>くもい</sup>町<sup>ちやう</sup>の大火」で類焼してしまいました。その後、1907年6月、十二間四面の本堂を再建し、神奈川県下を崇敬<sup>そとぎやう</sup>区域として支院から昇格し、本願寺横浜別院として新たなスタートを切ります。しかし、1923年の関東大震災で全焼。震災の翌1924年10月には、仮本堂・庫裏を再建。さらに隣地には貸ホール、地下には託児所を設けた国際文化会館を建設しました。1940年には震災によって全焼倒壊した建物を再建し、託児所を別院付属幼稚園として創立しました。しかし1945年の横浜大空襲によって、完成したばかりの別院堂宇その他一切が灰燼<sup>かいぜん</sup>に帰してしまふのです。

何度も消失を繰り返した横浜別院は、戦後

の経済事情の関係で、それから25年間、本堂再建を果たすことなく仮本堂のままです。崇敬を続けることとなりました。

1971年、横浜市都市中心部の開発計画がたてられ、その協力要請を受けて、横浜別院は現在地の港南区日野<sup>ひの</sup>に移転、同時に別院再建委員会が立ち上げられ、復興事業が開始されました。

それから1974年11月、第二次世界大戦後30年の長きにわたる別院明徒、崇敬区域寺院の念願が叶って、別院本堂・庫裏は完成しました。

2012年には横浜別院付属大谷幼稚園を学校法人化しました。

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要の記念事業として2015年本堂修復および神奈川教化センターが竣工し、現在に至っています。

教化センターは首都圏教化の一翼を担う使命を果たすべく、「別院に願われていることをかたちにする歩み」をコンセプトとして、別院本来の存在意義を確立し、混迷する時代社会に、宗祖親鸞聖人の御教えを相続していく活動が願われています。

(横浜別院ホームページ参照)



1975年頃の横浜別院



1942年頃の横浜別院





横浜別院輪番（住職である門首の職務を代掌し、別院の代表役員を務める）坂田智亮氏にお話をお聞きしました。

**編集** 横浜別院の課題を教えてください

**輪番** 教区内での横浜別院の認知度が低いことです。教区内のご住職でも詳しくはご存じないか、自分たちとは関係ないと思われるのかもしれない。

横浜別院は、歴史的に地域教化の中心として崇敬があったわけではありません。横浜開港以降、次々と成立していった横浜の一般寺院と同じようなあり方でした。浅草本願寺の支院として始まり、その後別院となりましたが、別院というよりは一寺院というような感じでした。関東大震災以降に横浜の中心地から現在の場所に移転したので、地域での歴史的関係が引き継がれているわけでもありません。さらに場所が不便なため宣伝しても人が集まらない。神奈川連合組(横浜組、川崎組、三浦

組、湘南組)での会議や研修などで利用されていますが、地域の人が集まるのに特別に便利な場所というわけでもありません。さらに教区内の別院ですが、神奈川を除く他の地域の方々からの存在意識が薄く、参詣、教化施設の利用は少ないのが現状です。

別院は地方における教化の中心道場として機能するという願いがかけられている場所です。しかし教区内や首都圏教化という中で位置付けが確立されていないため、2016年に横浜別院内に教化センターを設立しましたが、教区内での教化拠点というよりは横浜別院だけの教化という表現になりがちです。これからの別院をどう位置づけるのか、仕組みをどうするのかという課題が残されていると思います。



坂田智亮輪番



## 真宗大谷派 本願寺横浜別院

神奈川県横浜市港南区日野 1-10-8  
電話 045-841-3434

URL: <http://www.yokohama-ootani.com/honganji/>

お車でお越しの方

横浜横須賀道路日野 IC より 上大岡方面 約5分

公共交通機関でお越しの方

【バス】京浜急行上大岡バス ターミナル④⑤⑥のりばより吉原下車徒歩3分

【地下鉄】港南中央駅出口①より鎌倉方面へ徒歩10分

【タクシー】京浜急行上大岡駅より 鎌倉方面 約5分

ホームページ QRコード



## 神奈川教化センター

別院における教化活動の更なる充実を願い、2016年に宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念事業として、別院内に「神奈川教化センター」が誕生しました。神奈川教化センターは、運営委員会において一年の事業を計画し、儀式部会、伝道部会、企画広報部会の3部門において運営されています。

ここでは取材でお聞きしたことを踏まえ、神奈川教化センターによる取り組みや、横浜別院併設（別法人）の幼稚園などを紹介します。

### 横浜別院年中行事

修正会	1月1日
春季彼岸会	3月下旬
永代経	5月28日・29日
孟蘭盆会	7月13日～15日
暁天講座	8月下旬
春季彼岸会	9月下旬
報恩講	10月18日～20日
・定例法話会	
毎月9日・28日	

## グリーンフケア

教化センターの取り組みの一環として、グリーンフケアの活動が挙げられます。

具体的な内容として、専門の講師の方をお招きして、実際にグリーンフケアができるようなスタッフの養成講座を行っています。

また、養成講座を修了したスタッフによる「グリーンフケアのつどい」を定期的に実施して、実際に大切な人を亡くされた方に対してグリーンフケアの活動を実践しています。

今後の活動として、横浜別院の門徒で横浜市内の病院に勤務している医師の方がいらっしやるご縁から、病院でのグリーンフケアを行うことを検討していますが、実行が難しいことと、各地で行われているグリーンフケアと比べて真宗の寺院で行うグリーンフケアはどのような独自性があるかをアピールすることが課題として挙げられます。

### グリーンフケアとは

家族や友人など大切な人や大切なモノを失うなどの深い悲しみに暮れる状態（グリーフ）の人に対して、その悲しみに寄り添いサポートすること（ケア）



### 真宗大谷派本願寺横浜別院 グリーンフケアのつどい

ひとりで悲しみや苦しみを抱えておられませんか。グリーフとは、深い悲しみ、悲嘆という意味です。私たちに日々様々な別れがあり、対象を喪失することによって色々な気持ちが生じています。深い悲しみや不安、怒り、悔し、恐れ、恨み、妬みなどの気持ちを大事にする時間が、日々の生活家事、仕事、学業、娯楽などによって奪われています。気が付くと時間の経過とともに悲しみなどの気持ちは風化してしまっているのかもしれない。

仏教では、対象を喪失したときに生じる気持ちには、それぞれに意味があると教えられます。苦しいときや悲しいときにこそ、勇気を出して立ち止まり、その気持ちを数ね直す（深める）時間をグリーンフケアのつどいは大事にしています。

皆さまとともに、悲しみや苦しみの意味を訪ねる場を毎月（偶数月）の第2土曜14時から開催します。どなたでも、お気軽にご参加ください。

- 場所 本願寺横浜別院
- 日時 偶数月第2土曜日  
・10月12日(土)  
・12月14日(土)  
・2月8日(土)
- 時刻 14時～
- 参加費・申し込みは不要です
- 開催日詳細は、別院のホームページを参照下さい
- 研修を受けたスタッフが対応いたします
- 個別をご希望の方は、別院までお問合せ下さい

主催 本願寺横浜別院  
〒234-0051 横浜市港南区日野1-10-8  
TEL 045-841-3434

真宗大谷派 本願寺横浜別院 神奈川教化センター企画広報部 主催

## グリーンフケアの基礎を学ぶ研修会

ファシリテーター  
尾角 光美氏（一般社団法人 リゾオン代表）  
水口 陽子氏（一般社団法人 リゾオン理事）

4月5日(木) 第1講 セルフケア ～自分自身を知る～  
5月10日(木) 第3講 「働く力」を育む

日程：全3回 10:30～16:30（連続3回の開催を原則とします）  
会場：本願寺 横浜別院（横浜市日野1-10-8）  
参加費：12,000円（送料・教材代含む）  
定員：20名程（定員となり次第、開催を締め切らせていただきます）  
お申し込み：参加ご希望の方は、氏名・住所・〒番を下記までお知らせください  
ご所属の聖職者様へご挨拶をお願いします

お問い合わせ：真宗大谷派 本願寺横浜別院 TEL 045 (841) 3434

正信偈の会 はじめます

## 参加者募集

毎月、9日午前中 1月よりスタート! 内容

第1回 1月9日(木) / 10:30~12:00	正信偈
第2回 2月9日(日) / 10:30~12:00	(同期奉讃式)の
第3回 3月9日(月) / 10:30~12:00	お稽古

- 初心者歓迎! 基本から始めます
- 定員 15名まで少人数制
- 持ち物は念珠、赤本など ※お持ちでない方は別館で用意します。
- 講師は別院僧侶
- 申し込みは前日までに! 参加無料

会場: 真宗大谷派 本願寺横浜別院 (横浜市港南区日野1-10-8)

問合せ: TEL045-841-3434



「正信偈の会」は、普段、お勤めで唱和する正信偈の練習・正信偈に関する法話会をしています。お勤めの練習とその意味を確認でき中高年の門徒さんから好評です。

## 正信偈の会

声明儀式研修会は、別院を会場にして年4回開催しています。真宗会館での研修会ではなかなか出来ない本堂での作法を実践できる機会を提供しています。参加者は神奈川連合組にとどまらず、広く東京教区内に呼びかけられています。東京教区における儀式作法の研鑽の拠点として機能を果たしています。



## 声明儀式研修会



横浜別院お座敷の欄間は、富士山や横浜ランドマークタワーなど横浜の風景が彫られた珍しい図柄です。

襖には横浜別院の紋  
やまゆりぼたんもん  
「山百合牡丹紋」



## 別院の風景



学校法人横浜大谷学園

## 大谷幼稚園

横浜別院に隣接する大谷幼稚園は、1924年に別院内に設置された託児所を前身として、1940年に別院付属の幼稚園として創立されました。その後、別院と共に戦災の復興に伴い、1972年に現在地へ移転し、2012年から宗教法人「横浜別院付属大谷幼稚園」から学校法人「横浜大谷学園大谷幼稚園」となりました。

以前は別院の輪番が幼稚園の園長を兼任していましたが、学校法人となつてからは新たに園長を置き、輪番は理事長として引き続き運営に携わっています。

大谷幼稚園の教育方針として、恵まれた自然の中で楽しく元気に活動し、仲間との触れ合いを大切に、素直な心、思いやりの心を持った人間形成を目標としています。

真宗保育を標榜し、花祭り・お盆・報恩講・成道会・涅槃会・お彼岸といった仏事も、幼稚園の年間行事として行っており、入園式や卒園式も別院の本堂で行われています。

また、幼稚園設立には「エリートを育てるのではなく、除外される人はいません、みんなどうぞ来てください」という願いがあり、その言葉の通り、発達障害の子どもを積極的に入園させていることも特徴です。

一般社団法人 横浜子ども支援協会

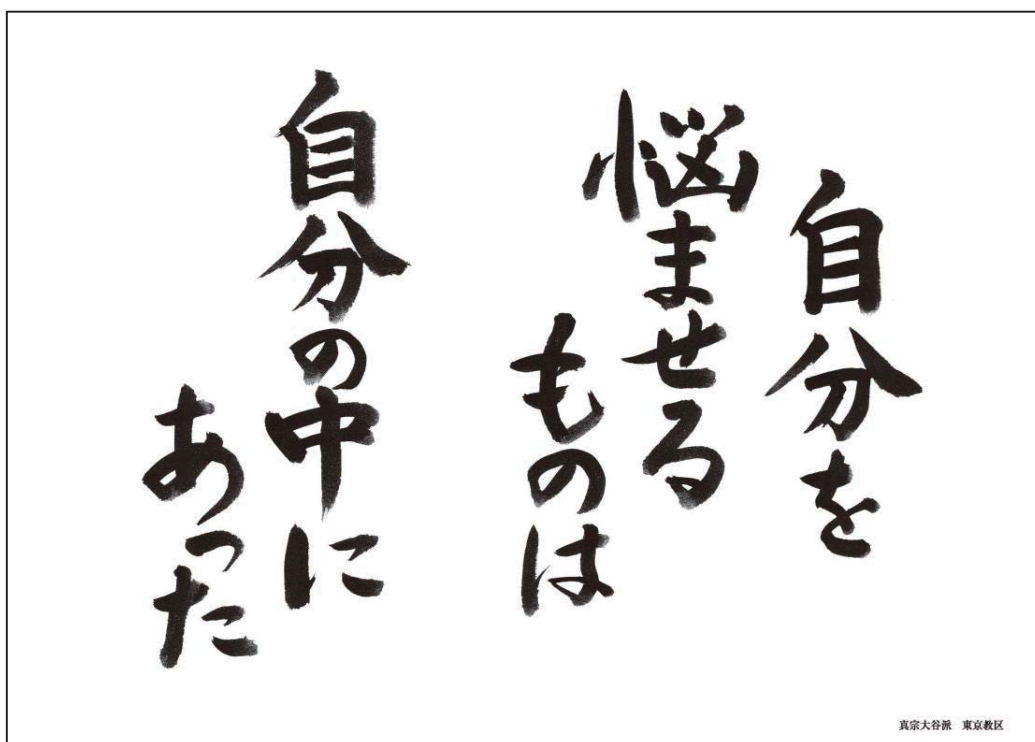
## 寺子屋ぶらすα

大谷幼稚園とは別法人として、2018年に発達障害の児童を支援するため、「一般社団法人 横浜子ども支援協会」を設立して、横浜別院の中で「寺子屋ぶらすα」という施設を運営しています。

始めたきっかけは、発達障害のお子さまを持つ保護者の負担を軽減するためです。これまで幼稚園が終わると別の養育施設へ移動する必要がありました。引き続き同じ敷地内で預けられるようにしました。さらに発達障害のお子さんを対象とした支援事業として、協会の職員により学習などを支援するトレーニングコースとスタディコースなどを用意した「寺子屋ぶらすα」を行っています。



## 今月の法語



- ・頒布中「掲示伝道用ポスター」(A2 サイズ)  
「掲示伝道ポスターミニ」(ポストカードサイズ)
- ・「掲示伝道用ポスター」が貼れる門徒宅用掲示板を無償設置いたします。  
詳細は東京教務所まで。

教区教化通信 研修部門

## 二〇一九年度 東京教区「秋安居」

栃木組 正明寺 雲乗 真樹

2月20・21日、東京都の貸会議室プラザ八重洲北口を会場に、東京教区秋安居が開催されました。講師は田代俊孝氏、講題は『愚禿鈔』講讀―教相判釈と真宗開頭―でした。

内容は、『愚禿鈔』の成立・教相判釈・『観経』の三心・自力真実と利他真実・賢者の信と愚禿が心などについて、『愚禿鈔』だけでなく、『教行信証』や『観経』、『歎異抄』などにも触れながらご講義いただきました。その中で、真と仮とは相対的な選択で優劣をつけるのではなく、機の自覚からの自身の歩むべき道の確認であり、それが仮から真への回心であるということもご教授いただきました。

これまで東京教区の秋安居は、一都八県で会処を持ち回りをして二泊三日という日程で開催されてきました。参加者からは「講師の先生と宿泊を共にし、じっくりと仏法の温泉

につかることができる」といった声がある一方で、「正直、三日間お寺を空けるのは難しい」などの意見もありました。蓮如上人御一代記聞書に「一宗の繁昌と申すは、人の多くあつまり、威の大なる事にてはなく候う」（『真宗聖典』877頁）とあるように、参加者が多ければ良いというわけではありませんが、運営する側としては、できるだけ多くの方が参加しやすい環境を整えることも必要だと思います。

今回、交通の便が良い東京駅近くで二日間という日程で開催されましたが、貸会議室という初の試みでこちらの段取りが行き届かず、参加者の皆様にご迷惑をおかけしてしまっただ点もありました。最終日にはアンケートを書いていただきましたので、皆様のご意見をもとに、今後の秋安居のあり方を検討していきたいと思えます。



# 教学者は「是旃陀羅」問題に己の血を流せ！⑤

「同和」協議会会長 岩寄徹

△4月号の続き（全5回「最終回」）▽

ここで親鸞仏教センター（以後センターと略す）の読み方に沿って考えてみよう。「人間存在」ということでいえば、誰一人として「煩惱具足の凡夫」から外れる者はいない。そのことを教示するために」ということが親鸞の意図であるとする、確かにセンターの言う通り、「りようし・あき人」の語句は文脈上の価値を失い、「たまたま」という位置づけでも良いことになる。

しかしセンターが言う、「人間存在」ということでいえば、誰一人として「煩惱具足の凡夫」から外れる者はいない。そのことを教示するために」ということが親鸞の意図である、一体どこで言い得るのだろうか。

私たちは文章を読む際、文脈に従って読むで行くのが通常の方法ですが、センターは最初に結果（答え）が設定され、その設定に論理が合うように読んで行く方法を取っている。

最初に、「誰一人として「煩惱具足の凡夫」から外れる者はいない」と規定し、それに合致するように文章を読んで行く。そうすると、「りようし・あき人」はたまたま取り上げただけという、文章上価値の低い語句になる。これでは『唯信鈔文意』を読む意味がない。最初から「誰一人として「煩惱具足の凡夫」から外れる者はいない」という結論が出てしまっているのだから。このような調子だと、親鸞の著作は全て「誰一人として「煩惱具足の凡夫」から外れる者はいない」というところから読まれ、それに合致しない語句は価値

が低い言葉としてネグレクトされるのだろう。実にくだらない読解方法だ。

親鸞は、『唯信鈔文意』で、「具縛の凡愚、屠沽の下類、無碍光仏の不可思議の本願、広大智慧の名号を信樂すれば、煩惱を具足しながら、無上大涅槃にいたるなり」と、「具縛の凡愚」、「屠沽の下類」とわざわざ分けて論じている。この分けている理由を探るのが教学であると私は考えるが、センターは先ず結論ありきで、そこから読むと「屠沽の下類」は無くて良いことになる。何か出来レースをやっているみたいだ。

しかしこれでは親鸞があまりにも可哀想だ。あー、私は親鸞でなくて本当に良かったと、今しみじみ思う。それにしても、教学者と呼ばれる者で、少しは誠実さを持った者はいないのか。「是旃陀羅」問題という高く分厚い困難に血を流して取り組む教学者はいないのか。と言いつつ、私はどんなことがあっても取り組む。

《了》

はい！こちら真宗会館です

駐	在
日	記

駐在からひとこと  
「ご安心」  
今、この言葉が私を問うています。



東京教区駐在教導

渡邊 誉

「もしホワイトハウスが自分のために晩餐会を開いてくれるのであれば、ぜひ私の友人ルー・リードもホワイトハウスに呼んで彼の演奏を聴きたい」

この言葉を当時の合衆国大統領にリクエストしたのが現チェコ共和国初代大統領ヴァーツラフ・ハヴェル（1936-2011）氏である。そして1998年9月にそれは実現した。ハヴェルがルー・リードというミュージシャンの名前を口にしたこと。そしてホワイトハウスに自分と一緒に招待をして欲しいと大統領に告げたこと。さらにそのことが実現したことの3つに少なからず私は驚いた。

ルー・リードは1942年3月2日ニューヨーク州ブルックリンに生まれた。1965年にロックバンド、“ヴェルヴェット・アンダーグラウンド”を結成しヴォーカルとギターを担当した。私は高校生の時から今でも彼の音楽を聴いている。2013年に肝臓疾患に関する病気で死去した。しかし何故そのルー・リ

ードの名前をハヴェルがあげたのか。元々政治家ではなく劇作家としての道を歩んでいた彼は「プラハの春」後の共産党政権に対し抗議活動を行い、幾度となく逮捕、投獄された。1989年に「ビロード革命」を率いて民主化を成し遂げ、チェコスロヴァキア共和国大統領に就任。さらに前記に挙げたように当時のチェコ共和国の初代大統領も務めた。「ビロード革命」のビロードとは言うまでもなく「ヴェルベット」、つまりルー・リードが結成、在籍していたバンド名からの引用であることに頷くことができる。

※「プラハの春」1968年チェコスロヴァキアで、自由化・民主化運動が活発となり、ドブチェク共産党第一書記はじめ政府もこれに応じたことを指す。同年8月、ソ連などワルシャワ条約機構軍が軍事干渉を行なって、自由化運動は弾圧された。別名「チェコ事件」（広辞苑より）



はい！こちら真宗会館です



東京宗務出張所  
書記補

大山 我聞

担当：首都圏教化推進本部 教科広報部門

最近見た映画：「パラサイト 半地下の家族」



東京に赴任させていただき早 8 ヶ月。目まぐるしい日々を送り続け、あっという間に春を迎えたが、過ごしやすい気候とは裏腹に花粉症の私にとってこの季節は厳しく、夏を待ち遠しく感じている。

つい最近、突然スマートフォンの電源が入らなくなり、ひどく焦った。近ごろのスマートフォンの機能のひとつで、自分が 1 日どのくらいスマートフォンを使っているかを見ることが出来る。後に調べてみると私の場合は 1 日あたり平均 8 時間ほどだった。1 日の約 3 分の 1 を奪われてしまい周囲との連絡も絶たれ途方に暮れていた。

そんな状態で 1 日を過ごしてみると、空いた時間に億劫で手付かずだった掃除や整理整頓をしてみたり、普段

なら手に取らないような本に目を通してみたりと、マイナスなことばかりではなく意外にも有意義な日に思えた。何気なく当たり前のことかもしれないが、スマートフォンにとらわれて日常にある多くの選択肢を消して時間を無駄にしていたのだと気づかされた。

携帯電話やスマートフォンは多くの人の生活に入り込んでいて欠かせない存在となっている。しかしながら、必要だと思っていたことを手放してみても初めて気づく発見や変化があると思う。スマートフォンの修理代がこの気づきの授業料だと思うといささか高いような気もするが、たまには電源を落として何の煩いもなく様々な発見を楽しんでみたい。

## 人事異動



## 着任



首都圏教化推進本部法務員

 しばはら  
ゆうり  
悠理

この度、3月1日より首都圏教化推進本部法務員として着任する事になりました芝原悠理と申します。出身は京都府京都市、自坊は京都教区近江第三組養専寺でございます。

以前までは真宗大谷派札幌別院列座として奉職させて頂き、稀有なるご縁の中お育てを頂きました。引き続き、宗門での法務に携わらせて頂く事に深く感謝し、身の引き締まる思いでございます。

今は着任し一カ月が経ち、諸先輩方からの暖かく、手厚いご指導を頂きながら、首都圏での生活が出発できたことをありがたく存じます。

もとより浅学非才の身ですが、この地で新たに御門徒の方々と共に真宗の教えを学び、分かち合う事を楽しみに、皆様のご期待に沿うよう精一杯努力してまいる所存でございます。何とぞご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 退職



東京教務所教区雇員

 しらかわ  
りょう  
亮

2015年に教区雇員として採用をいただき、このたび5年の任期満了に伴い退職する

こととなりました。

今、この5年間を振り返りますと、自分にとってかけがえのない出来事は「出会いと別れ」だったように思います。

2014年に結婚を機に入寺をさせていただき、東京教区先輩門徒の方々、そして真宗会館職員の方々、本当にたくさんの方々の出会いがありました。

また、別れという事については、大変お世話になったご住職の突然の死でした。都度何かあるたびに「副住職をよろしくね」と冗談を交えながら話をさせていただいた事がとても思い出に残っており、私自身が私の子ども達に残してあげなければいけない大事なものは「人間関係」だという事を最後に教えていただいたと勝手に思っています。

これから先、寺院を取り巻く環境は今以上に大きく変化し、葬儀や法事の形が大きく変化していくかもしれません。しかしどれだけ環境や自分自身が変わっても、真実は決して変わらない。この事を私自身が信じ、そして、ご縁をいただく方々に伝えていきます。

この5年間、ご縁をいただいたすべての方に感謝を申し上げ、退職のご挨拶とさせていただきます。

## 3月敬弔

小笠原 和代 様

東京1組 榮敬寺 前坊守

3月8日命終 91歳

石川 宣明 様

茨城1組 福法寺 前住職

3月20日命終 89歳

生前のご功勞を偲び、  
念仏合掌して哀悼の意を表します。

涌<sup>ゆう</sup>

## 編集員の随筆



新型コロナウイルスの感染拡大を受けて『ネットワーク9』ではスカイプ(インターネット会議)を利用して編集を行っている。本来ならば担当する編集班のスタッフが真宗会館に集まり、話し合いながら進めるのだが、せっかくの機会だからテレワークを実験してみようと思う。といっても前号担当班が実施済みなので、なんとかできると思っている。

『ネットワーク9』でスカイプを用いた当初は、編集日に会議室に集った編集員が同じパソコン編集画面を共有し、文章を吟味するところから始まつたらしい。見たら同じ部屋でそれぞれのパソコン画面を見て話し合っている。やり始めた当時の本田班は仲が悪いのかといぶかしく思ったものだ。しばらくして、留守番等の理由から真宗会館まで出席できない編集員が遠隔参加するのに使われ、次に班での企画会議をやってみることになった。日程調整に失敗して夜に2時間くらい打ち合わ

せに使ってみる。資料もデータで見せられるし、進行に合わせて議事録を黒板代わりに表示するので、ワザワザ時間をかけて真宗会館に集わなくても良いのではないかと思うようになった。

しかし全員が同じ環境を整えるのが手間。スカイプを導入してもらわなければならない。編集データ置き場として共有データ保管場所を準備する必要もある。設定がうまくいかないとそれだけで時間が過ぎていく。使い慣れないのでどこをどうすれば良いか、聞くのも言うのも大変だ。

これでメンバーの往復時間と旅費が浮く。会議1回分の旅費で有料サービス1年間分の予算が出来る。けど別のグループで実験したとき、参加者はたった3人だった。導入でいつもコケる。利用にはまだまだ課題があるようだ。

(東京5組 報土寺 朝倉 俊隆)